

3、インドの印刷 IT とマーケットの国際化

日本プリンティングアカデミー 田中 崇

インド経済の発展とインドの出版

10億人の人口を持つインドの経済はこの1~2で年率8%近い成長をしている。その理由は「世界の工場」を目指す中国に対して世界の「情報処理センター」を目指す程のインドのIT力によるものである。古くからの英語対応力、教育投資、高所得者の子弟の先進国留学、低労働コスト（月給1万5千円）という社会基盤にコンピュータ社会、インタ-ネット社会到来による、多くの外国企業のインドへの進出で、インド経済が急速に拡大している。インド経済発展の主役は国内のコンピュータ利用の拡大による、従来ビジネスの国際化による拡大と、コンピュータソフト関連ビジネスの出現であるが、それに伴って、広告、宣伝が必要となり、商業印刷物の印刷が増大した。この数年、コンピュータ関連などの雑誌が急増し、大量の広告が掲載されている。インド最大のビジネス週刊誌は部数120万部（5言語）オールカラーで、定価は約30円、広告で採算が取れる。販売も立ち売りなどユニークである。（英語人口は60%程だが実数は膨大である）

印刷に国境はない（インドはアメリカに次ぐ英語出版大国）インドの書籍出版は世界最大24の言語の出版がなされており（英語版が1/3）-紙幣にも16の言語が表示されている。また、イギリスの出版社が編集したものをインドで印刷して、世界中に配送するものもあり、2004年のデリ-国際ブックフェアには、世界23カ国から1500社もの出展があり、会場1万坪と東京ブックフェアの10倍もの規模であった。

印刷業の目指すべき方向。

インドには、14万社の印刷会社があり、100万人が働いている。大手の印刷会社（従業員1000~2000人）では欧、米、豪などに営業所を持ち、インターネットの利用で画像処理、印刷、加工の仕事を受注している。データ-処理では、東京に数十社のインドのソフト開発会社があり、金融関係などのコンピュータソフトの開発を受注している。

インドの印刷会社では、プリプレスでは最新のアメリカのハード、ソフトに自社開発のソフトも使って、欧米の出版社の編集レイアウトや言語変換の仕事を受注し、データを電送納品している。印刷では数千キロ離れた工場にフルカラーのデータを送りCTPを導入して、印刷ITは世界水準である。4~5年前から、ISO9000を取得する印刷会社も増えている。一部では、TV会議、編集とのリモートブルーフ利用も始まっている。

印刷技術は最高の画像処理技術であり、印刷会社が画像を含む情報処理の最適任者であることは今後も変わらない、しかし、画像情報のユーザーと情報を持っている人とをつなぐ仲立ち人の印刷人たちが、情報の中身、ユーザーの希望を分析して、相互をつなぐ最適のハード、ソフトを提案しなければ印刷会社の存在価値がなくなることになるのだろう。